

平和と正義のための MIC 06 春闘勝利！ MIC 2006 春闘決起集会

2006年3月16日午後6時半から豊島公会堂でMIC2006春闘決起集会が開催され、約400人が集まりました。冒頭、落語家協会の女性落語家・春風亭鹿の子さんの「寿限夢」で開会しました。生まれた男の子にありがたくて長い名前をとせがんで付けたもらった名前が長いことから起こる悲喜劇を扱った落語です。現代の少子化・教育の問題についても考えさせられました。

続いて挨拶に立った美浦克教 MIC 議長が「『NO WAR! MORE JUSTICE!』という MIC のスローガンを掲げて今春闘も闘っていきたい。平和と正義、とりわけ正義をというテーマに関わって、働く者の権利をどう守り拡大していくか。それが今、問われている」と訴えました。

(写真: 美浦議長挨拶)



「労働組合がない企業の労働者、また非正規の方が、そういう人たちと共闘していったって格差の拡大にいいかに NO と声をあげていくか。それが問われている。今、日本で起こっている流れを三つに分けると 格差社会～格差の拡大 監視社会～共謀罪 戦時社会～総じて憲法9条の改悪。この三つの動きは実は連動している。フリーターやニートは、『職のない人間』ということでマイナスイメージで語られているが、憲法が改悪されれば自衛軍として海外派兵に出ていく。そうすると『フリーターやニートは自衛軍に入って死ぬ』となりかねない」と指摘しました。「私たち労働組合は、その権利を行使することによって、格差の拡大に反対していく」として「ま

ず言論表現の自由、知る権利を護るために、すべての表現規制に反対していくところから憲法の改悪を許さない運動に広げていこう」と呼びかけました。

「一つの課題、一つの流れがみなリンクしている。今こそ私たち労働組合が社会の先頭に立って、権利の拡大と戦争を許さない運動を行う。まさに『NO WAR! MORE JUSTICE!』の闘いを前進させよう」と訴えました。

次に「第六の権力を目指そう」と題して北村肇氏(週刊金曜日編集長)が講演を行いました。北村氏は、1974年に毎日新聞入社、2004年1月に同社を退職して同年2月より「週刊金曜日」編集長。96年9月から98年7月まで新聞労連委員長、MIC 議長を歴任されました。「『マスコミは死んだ』と言うが、マスコミはすでに死んでいた。その中にいた自分も戦犯だった。だから蘇生させなきゃいけない」という語りから講演がスタートしました。

メディアの問題では

警察の裏金問題で地方紙が頑張っても、他の大手紙が応援しない

トヨタのリコール問題でも大手紙は一部の新聞は一面で扱ったが、他紙は扱いが小さかった。

朝日とNHKの問題

などの最近の具体例をあげて大手メディアの在り方に疑問を投げかけました。

共謀罪についても報道しない。憲法改悪の本質にもキャンペーンを張って報道しない。メディアによる本質隠しが進んでいる点も指摘しました。

小選挙区制の導入、中曽根政権による国鉄民営化をはじめとする労組弱体化のための政策、日経連の出した「新時代の日本的な経営」などは、すべて「労働組合を弱体化させる」という考えで進められてきました。非正規雇用を増やし、成果主義を導入し、労働者の分断を図る。次に彼らが考えたのがマスコミを封じ込めることでした。

個人情報保護法、盗聴法、そして共謀罪については「これは市民運動などを潰すだけではなく、労働組合から革新政党、すべてに投網をかける法律」であり「最後の詰めの一手法」と警鐘を鳴らしました。そして権力が10年以上にわたって詰めてきたのを止められなかったメディアに反省を促しました。(写真：北村氏講演)



「その総決算が憲法改悪だが、その前に中間報告通りに米軍再編成が行われれば、日本は米軍のもとで集団的自衛権を行使できることになる」と今回の在日米軍再編の危険性を指摘しました。

「憲法改悪というのは、9条にこだわったら足下をすくわれる」として「今回の改正は、現憲法の放棄、新憲法を作ることまで進めてきた保守革命の仕上げである」と憲法改悪の本質にも言及しました。

「みずからを振り返っても国家権力側が、このような保守革命のために一手一手詰め将棋のように準備を進めていたことに気が付かなかった」本来なら主権が国民から取り上げられて、国家が全てを握る保守革命の問題点をマスコミが追求する責任があります」と話されて「マスコミは立法、行政、司法の三権に続く第4の権力と言われているが、現在は第4の権力は財界であって、今のマスコミは第4の権力の補完をするための第5の権力になりさがっている。だから今必要なのは第1



から第5までの権力を監視して批判する第6の権力である。MICを中心にさらに横の連帯を強め、それを核として第6の権力を作り、保守革命から日本を守ろう！」と呼びかけました。

続いて井戸事務局長からまとめと行動提起がありました。「現在、北村さんの講演にあったようにメディアとともに労働組合も反省すべきである。95年に日経連が『新時代の日本的経営』を打ち出した時も深刻な危機感を持っていなかった。そのつけが大きくのしかかっている。格差社会という問題がクローズアップされてきたが、私たちも

真剣な取り組みが必要である。大きな核をもっていかに反撃していくのか。日本の状況を変える先頭に立つべき部隊は労働組合しかない。私たち労働組合に関わる者が、確信を持って粘り強く勝ち抜いていく構えで取り組んでいくことが必要である」と指摘しました。

「労働の組合の力を取り戻すためには、大きな団結が必要である。

MICは将来、一つの単産になることを目標に結成された。MICとしての力、MICとしての団結の力を06春闘では具体的に示せるようにMICの行動に結集していこう」と訴えました。

続いて争議団が壇上に上がり支援を訴えました。春闘決起集会アピール案が伊橋さん(映演労連)から提案され、拍手で採択されました。最後に松本純子さん(映演共闘：ジャパンヴィステック争議)が団結ガンパローを行って、集会を締めくくりました。また、この集会に先立って午後1

2時25分から千代田区神保町の錦華公園から「06春闘勝利 憲法改悪反対！平和と正義のためのMIC・千代田春闘共闘3・16昼休みデモ・千代田総行動」が行われました。

(写真：横断幕を持つ各単産代表)

今回は千代田春闘共闘との共催になり350名が参加し

ました。「憲法違反の共謀罪反対！言論・出版の自由を守ろう！知る権利と表現の自由を守ろう！教育基本法の改悪反対！文化予算の充実をはかれ！活字文化を発展させよう！」というシュプレコールが本の街・神保町にこだましました。

有楽町マリオン前・憲法改悪反対宣伝行動

4月7日、17時～18時まで有楽町マリオン前で「街に出て平和と正義を訴えよう！」というスローガンを掲げて憲法改悪反対の宣伝行動を行い約40名が参加しました。

今春闘のリーフの表題は「まもろう憲法9条基地にNO!」です。憲法改悪への動きが加速しています。各単産の代表もマイクを握って、憲法9条が今危機にさらされていることを訴えました。出版労連の前田書記次長は、教育基本法の問題にも触れ「愛国心を強要し、戦争への足がかりを作ろうとする流れを阻止しよう」と呼びかけました。

MIC 春闘リーフと同時に、MIC と JCJ で運営している憲法メディアフォーラムの PR ちらしも街頭で配布しました。

4・7 銀座デモ

4月7日、MIC と中央区春闘共闘が共催する「06春闘勝利！ 平和と正義のための夜の銀座デモ」が行われました。午後6時30分には歌舞伎座そばの築地川銀座公園で集合し、美浦 MIC 議長と中央区労協が呼びかけ団体代表挨拶を行いました。最後に MIC 各争議団も紹介されました。

午後7時にはデキシーキャッスルのバンド演奏とジャンボ風船を先頭にデモ隊は出発。桜の花が残る春の銀座にデキシーランド・ジャズが響きわたりました。メインスローガンに「06春闘勝利！ 平和と正義のための」を掲げた今回のデモには約300人が参加し「憲法改悪反対！」「06春闘に勝利しよう！」というシュプレヒコールが銀座の夜にこだましました。



MIC 4・14

争議支援総行動

新国立劇場(初台)

この日の行動はまず午前10時45分に新国立劇場に代表団による要請行動を行い、各単産の代表15名が参加しました。

新国立劇場の合唱団員を解任された音楽ユニオン会員でソプラノ歌手の八重樫節子さんは、2001年に3カ月間、新国の推薦で文化庁在外研修員として、オーストリアのウィーン国立歌劇場に留学しました。

八重樫さんが音楽ユニオンオーケストラ協議会発行の理論誌「季刊オーケストラ」に、この留学の研修を報告、その中で新国合唱団の試聴会や労働条件等を批判したため、その後行われた試聴会で合唱団メンバー9名が不合格となりました。すぐに抗議したため、この時は全員の不合格が撤回されました。

もともと合唱団は毎年、試聴会でメンバーを選び直すというヨーロッパでは考えられない不可解な方式をとり続けています。

02年8月、音楽ユニオンは団交を申し入れましたが、新国側はこれを拒否、03年2月、試聴会の結果を理由に八重樫さんの契約更新を拒否しました。

今回、財団法人新国立劇場運営財団に対して、争議の解決交渉に応じるように申し入れを行い、要請書を手渡しました。

協和出版販売(志村三丁目)

全体による争議支援行動は、午前12時15分から協和出版販売からスタートしました。協和出版販売株式会社は、従来の55歳定年を60歳までの延長に際して労組との協議もせずに就業規則を一方的に改定し、延長した期間55歳以降の労働者の賃金を40%もカットしました。

これに対して東京都労働委員会に不誠実団交による不当労働行為を申し立て、昨年12月には救済命令が出されました。ところが3月24日の東京地裁の判決は、就業規則の変更は合理的とし、定年延長によって「雇用が保障されたことに意味がある」「退職金の分割前倒し支給で賃

金目減り分の救済を図った」など労働組合の主張を全面的に否定した不当な判決でした。

これに抗議して、協和出版販売本社前には約120名の仲間が集まり、シュプレヒコールの声をあげました。最後に団体交渉の開催と具体的資料の提示による賃金決定を求める要求書を経営側に手渡しました。



一橋出版 = マイスタッフ (荻窪)

昼食後、午後2時30分には一橋出版の社前の行動に約120名が参加しました。一橋出版は2001年から加藤さんに教科書編集を単独担当させ、教科書を検定合格させた2003年、「派遣終了」の名目で解雇。一橋出版が親会社であり、同社が支配するマイスタッフを派遣元、一橋出版を派遣先とする体裁を取ることで、使用者責任を回避し、実質的な解雇を強行した派遣法悪用事件です。まず始めに支援共闘会議の議長でもある美浦MIC議長が挨拶。

次に音楽ユニオンの川本事務局長が、同じく争議を闘っている新国立劇場の八重樫さんの争議を踏まえて「労働者の使い捨てを許してはいけない」と連帯の挨拶を行いました。続いて地域の仲間も支援の挨拶を行いました。社前で会社側の社員も注視する中、力強いシュプレヒコー



ルが響き渡りました。(写真：美浦議長挨拶・左端) ジャパンヴィステック(中野)

午後3時30分にジャパンヴィステックに移動して、社前の行動に約110名が参加しました。2003年3月に映演アニメユニオンの組合員松本純子さんは、テレビ番組制作会社(株)ジャパンヴィステックを解雇されました。

2002年2月、会社は松本さんに「あなたの仕事はなくなった」と解雇を通告してきました。松本さんは組合とともに会社と交渉を重ね、会社は職場復帰を認めざるを得なくなり、一度は職場復帰しました。しかし、松本さんとユニオンが職場要求を掲げて春闘要求を提出したとたんに二度目の解雇を強行したのです。これを不当労働行為として東京都労働委員会に提訴し闘争はすでに三年が経過しました。会社は昨年末、東京地裁に「雇用関係不存在確認」の訴訟を新たに起こし、さらに係争が続いています。

まず民放労連の碓氷委員長が「同じ放送業界の仲間として支援していきたい」と連帯の挨拶を行いました。最後に全印総連・東伸社労組の菊間さんの音頭で力強いシュプレヒコールが中野の街に響き渡りました。

その後、午後4時から中野駅前でMIC春闘リーフの配布を行い、約40名が参加しました。一日行動終了後の交流会では、各争議団の自己紹介では、それぞれの争議に賭ける思いを語り、連帯の重要性を改めて実感しました。

(写真上：松本純子さん・写真下：中野駅前での街頭宣伝)

